

調査結果／孤立奮闘育児の裏側にあるママの本音！！

「いつ、どんな時に、どんな支援が、どれくらいあれば、安心して子育てできるのか？」

～子育て相互支援コミュニティ AsMama による徹底調査～

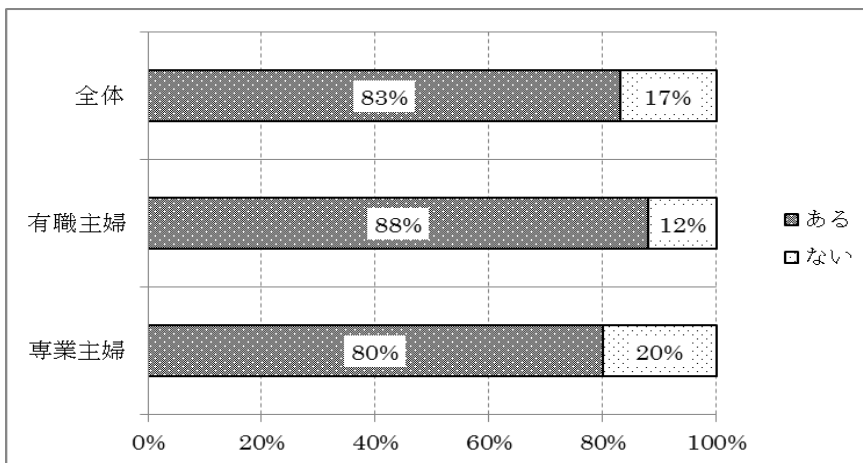
子育てを支援したい事業者や個人と、支援を必要とする親子が、安心安全且つ気軽に出会い、繋がり、やがては助け合えるようになるための場や機会の提供を、コミュニティサイトの運営と交流会やイベントといったリアルの場を通じて行っている株式会社 AsMama（本社：東京都、代表：甲田恵子、以下 AsMama）は、今後の自社活動推進に向けて、育児や仕事に孤立奮闘する育児社会を『誰もが、育児も仕事もやりたいこともかなえられる社会の実現』に向けて、子育て期（0歳～小学校低学年）の親が「いつ、どんな時に、どのような支援が、どのくらいあれば、安心できる子育て環境だと思えるか」について、アンケートとヒアリングによる独自調査を実施いたしました。その調査結果につき、以下のとおりお知らせいたします。

【調査方法】

- 1) 紙によるアンケートを横浜市を中心に約 500 名、WEB で自社会員約 300 名に配布。有効回答数 214。
- 2) 横浜市内の保育園ママ（有職主婦）、幼稚園ママ、未就学児専門ママ、小学校ママ（有職主婦）、小学校（専門ママ）其々数十名に対して個別にヒアリングを実施

【調査結果】

- 1) 子育てをしながら「助けてほしい」と思ったことがある割合（有職主婦／専業主婦別）



◆分析・補足

「助けて欲しい」と実感したことがある割合は専業主婦に比べて有職主婦の方が高いが、全体を総じて8割以上の方が助けて欲しいと思ったことがあると回答している。また、ヒアリングから、「助けて欲しいと思っただけでなく」と答える人の中には、「(自分の)親が同居している」といった親族が身近にいる世帯が多かった。また、回答のなかには、「結局、自分たち(家族内で)何とかするしかないと思っている」など、第三者を頼るという考え自体を持っていない、または諦めているという意見もあった。

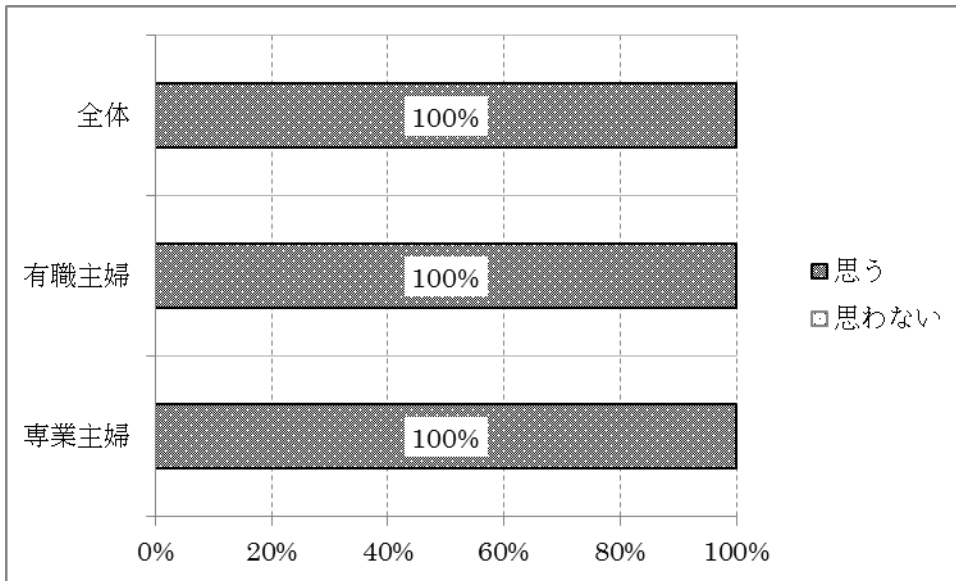
◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

TEL&FAX: 045-263-6433 メール: pr@asmama.jp

株式会社 **AsMama** (<http://asmama.jp/>)

横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター6F-A

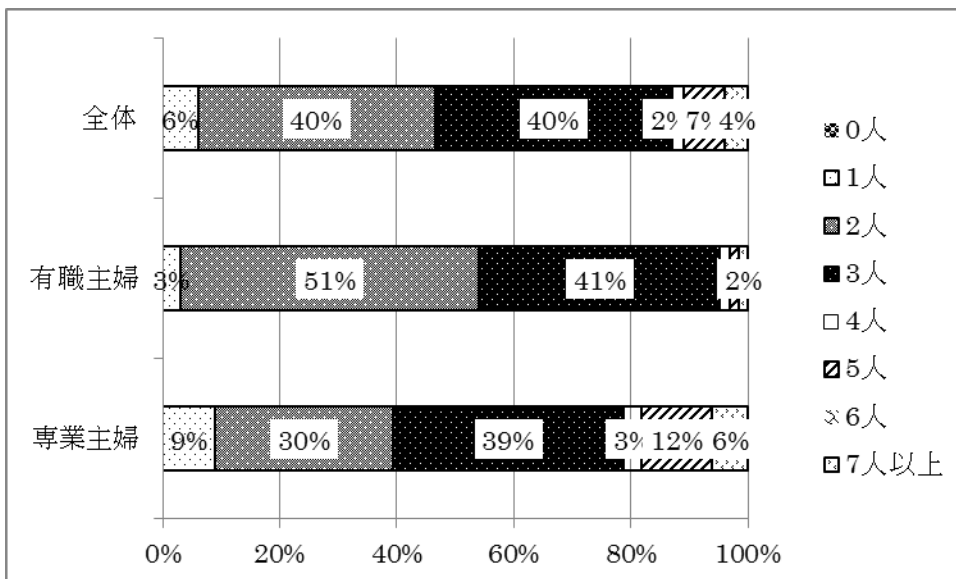
2) いざという時に頼れる人がいることが安心できる子育て環境に繋がると思う割合



◆分析・補足

1) の問いで「助けて欲しいと思ったことがない」と答えた人が10%強いたにもかかわらず、いざという時に頼れる人がいることが安心できる子育て環境に繋がると思う割合は、有職主婦、専業主婦共に100%であった。

3) 何人くらい頼れる人がいることが安心できる子育て環境に繋がると思うか



◆分析・補足

有職主婦が回答した平均回答人数が2.5人、専業主婦が回答した平均回答人数が3人、全体では2.8人となり、専業主婦の方がいざという時に頼れる人たくさんいてほしいと思っている。「7人以上」と回答した人は、「できるだけたくさんいる方が良い」と付記されていた。一方、1人と回答した人には「結局のところ身内しか頼りどころがない」「夫だけでも（もっと）協力して欲しい」という回答もあった。

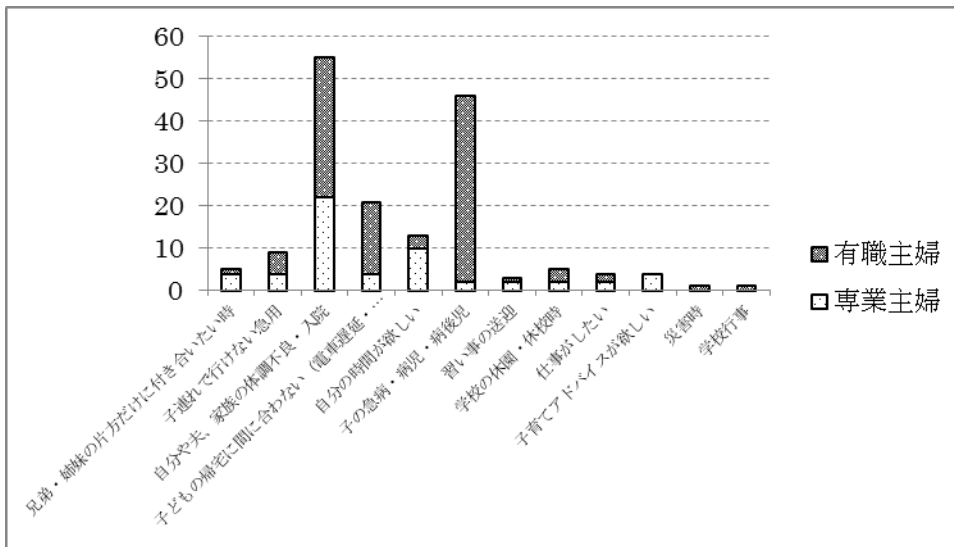
◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

TEL&FAX: 045-263-6433 メール: pr@asmama.jp

株式会社A s M a m a (<http://asmama.jp/>)

横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター6F-A

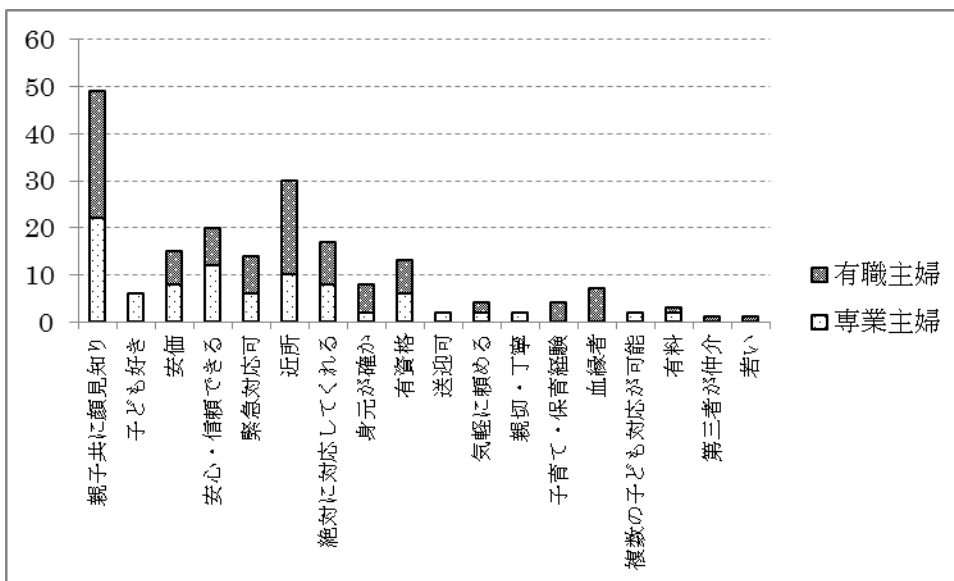
4) 「助けて欲しい」と思うシチュエーションは？（有職主婦／専業主婦別）



◆分析・補足

有職主婦は「子の急病・病児・病後児」が助けて欲しいと思う圧倒的最多理由で、次に「自分や夫、家族の体調不良や入院時」、「電車遅延・急な残業によりお迎えに間に合わない時」など突発的に出来事に対して仕事を天秤にかけなければいけない状況が挙げられた。専業主婦は「自分や夫、家族の体調不良や入院時」が理由として挙げたが、無回答も多く、シチュエーションが想定できていないケースも多いのではないかと思われた。ヒアリングの中では、「助けて欲しい、とまでは思わなくても、息抜きがしたいと思うことはある」と言った声が多かった。全体では、自分の体調不良時に助けて欲しいと思う割合が最も多い。また、こうしたシチュエーションにおいてどのように対処しているかについては、ほとんどの家庭では、「(自分が)がまんする」、「身内でなんとかしてきた」という回答した。

5) 支援が必要な時に「頼ろう」と思える条件は何か（有職主婦／専業主婦別）



◆分析・補足

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

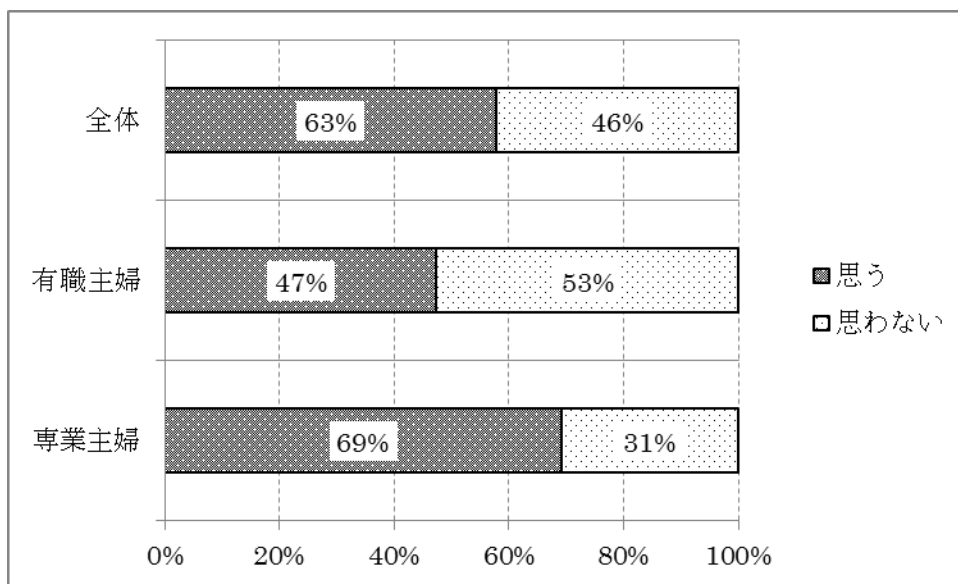
TEL&FAX: 045-263-6433 メール: pr@asmama.jp

株式会社A'sMama (http://asmama.jp/)

横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター6F-A

有職主婦は、「親子共に顔見知り」、「近所」に「絶対に対応してくれる」が続く。一方専業主婦も、「親子共に顔見知り」、「安心・信頼できる」、「近所」が続く。「近所」の目安としては「自宅から2 km以内」や「30分以内に自宅や学校にかけつけられる距離」という意見が多数。「安価」の目安は「1,000円/時以下」が理想で、有職主婦に比べて専業主婦の方が安価を望む傾向にある。ただし、無料と回答した人はほとんどおらず、むしろ「有料で良いから気兼ねなく、確実に預かってほしい」といった回答が目立った。「安心・信頼できる」の定義は個人によってばらつきがあり、「有資格者」や「子育て・保育経験がある」と回答した人の中にも、資格や経験にこだわるというよりは、相応の安心感があれば良いという回答もあった。一方、「結局のところいざという時ほど身内や家族以外は頼れないのでは？」という意見もあった。

6) 自分自身が空き時間や子育てをしながら、子育て支援（送迎・保育等）を提供したいと思うか



◆分析・補足

自分自身が子育て支援を提供したいと思うかどうかの回答については、有職主婦では47%が「思う」と回答し53%が「思わない」と回答した。一方で、専業主婦の場合は、69%が「思う」と回答し、全体では63%が「思う」と回答した。

思わないと答えた最多理由は「今は自分の子ども（と仕事）でせいいっぱい」。「何かあったらと思うと責任が持てない」という意見もあった。

また、「今は無理だが子育てが落ち着いたら支援提供をしたい」といった回答や「自分の子どものついで程度でできることなら提供したい」という回答も多く見られた。実際に送迎・保育等の支援提供を日常的にしているかといった質問に「ある」と答えた人は少なく、その理由については「誰がどんな支援を求めているのかわからないから」「知らない人への支援提供はやや抵抗がある」といった意見が挙がった。

＝まとめ＝

総じて、既存の支援を複数活用している世帯は少なく、特に、核家族など身近に頼る人がいない中・低所得世帯の家庭では、子育てのための支援を活用できておらず、いざという時には自分（母親）や家族内で紛糾・奮闘しながら対処しているのが一般である。独自調査では、未就学児に対する支援は、今回調査を行った対象が希望するほぼすべてのサービス（夜間保育や病児・病後児保育等）が提供されて

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

TEL&FAX: 045-263-6433 メール: pr@asmama.jp

株式会社 **A s M a m a** (<http://asmama.jp/>)

横浜市中区太田町2-23 横浜メディア・ビジネスセンター6F-A

いるものの「支援の不確実性」や「事前手続きの煩雑さ」、「価格に対する不安」等により、通常通園・通学している保育園や幼稚園、学校、学童以外の支援を利用した経験のある人の方が少なかった。一方、いざという時に利用したいと思える支援（者の）条件としては、「親子共に顔見知りで、信頼でき、比較的安価で、30分以内で駆けつけられる近所の人」といった概論にまとめることが出来、地域内交流の必要性や地域子育ての潜在的ニーズが一層明らかになった。

こうした結果を踏まえ、AsMama では、2011年の二大テーマとして、

- 1) 潜在的支援ニーズを持つ人が、支援を活用できるようになるためのノウハウ・バイブル本の発刊
- 2) 地域・社会でのリアルで実利ある繋がり・助け合いが行えるために仕組みの提供に取り組んでまいります。

以上